

<令和5年度 研究発表会開催概要>

日 時：令和5年11月16日（木）

場 所：ホテルアウィーナ大阪

発表校：大阪市立矢田中学校（大阪市東住吉区）

テーマ：「人権感覚力の育成」「主体性の伸張」に着目した修学旅行の取り組み

【重点を置いた活動】

生徒の自尊感情の向上を目指し、自己決定権を尊重した取り組みを推進した修学旅行

（実施要領）

- ・旅行先 広島県大崎上島・大久野島、岡山県鷲羽山
- ・時 期 令和5年5月10日（水）～12日（金）
- ・実施学年 第3学年（56名） 引率教員10名

・日程概要

1日目：学校（バス）⇒竹原港（フェリー）⇒大崎上島（櫓傳馬体験 民泊）

2日目：家業体験⇒垂水港（フェリー）⇒竹原港（バス）⇒忠海港（フェリー）
⇒大久野島（平和講話・戦跡巡り 宿泊）

3日目：毒ガス資料館⇒大久野港（フェリー）⇒忠海港（バス）⇒鷲羽山ハイランド⇒学校

「人権感覚の育成」「主体性の伸張」に着目した修学旅行

校長 西川 祐功
主務教諭・3学年主任 塚本 一清



学校外観

School Data

- 【創立年】 昭和 22 (1947) 年
 【所在地】 大阪府大阪市東住吉区住道矢田 9-5-55
 【教育目標】 ○豊かな人間性とたくましく生きる力を身に付けた矢田中生の育成
 ○「生きる力を」育む教育活動を推進する。
 ○基礎基本事項の定着を図り、自ら学ぶ意欲と態度を育て、目的意識をもって学習する生徒を育成する。
 ○互いの人権を尊重し、豊かな心を持ち、共に生きようとする生徒を育てる。
 ○個性を伸ばし、互いに認め合い支えあう集団を育てる。
 ○健康でたくましい心身を育てる。自律的な生活態度を育てる。
- 【全校生徒数】 183 名
 【教職員数】 30 名

● 学校紹介

本校は、大阪市の南部にあり大和川を挟んで松原市と隣接し住宅地の中に田園地帯の残る地域である。創立は昭和二二(1947)年で、今年の3年生は77期生となる。生徒数は183名で、学級数は特別支援学級を含めて11学級である。教職員数は30名、サポーターや部活動指導員などの会計年度職員21名を加えて51名のスタッフでチーム学校として様々な課題解決に向けて取り組んでいる。77期生60名の生活状況は、要保護17%、準要保護39%、合わせて56%と大阪市平均と比較してもかなり高い状況で、虐待やヤングケアラー等の課題を持つ生徒も少なくない。そのためか、小学校を含めた本校区では、自尊感情の育成が最大の課題となっている。行事を含むあらゆる教育活動において、互いを認め合い、自信をもって主体的に行動できることが最も大切にされている。

大阪府 大阪市立矢田中学校

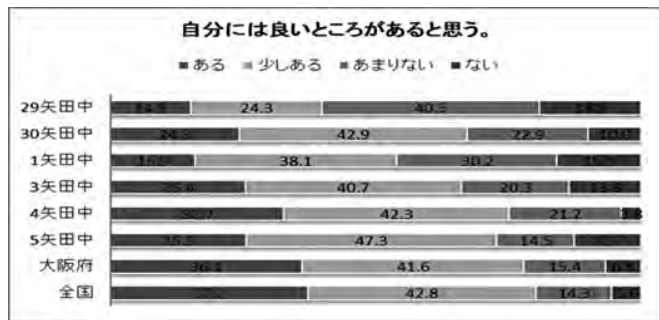
実施要項

- 旅行先 広島県、岡山県
- 時期 令和5 (2023) 年 5月10日 (水) ~ 12日 (金) 2泊3日
- 参加生徒数 3年生 56名
- 引率教員 10名
- 日程概要

- 【1日目】 学校 (バス) ⇒ グリーンスカイホテル竹原 ⇒ 竹原港 (フェリー) ⇒ 白水港 ⇒ 大崎上島 ⇒ 權伝馬 (かいでんま) 体験 ⇒ 入島式 ⇒ 民泊体験 各農家
 【2日目】 民泊体験 各農家 ⇒ 退島式 ⇒ バスで垂水港へ ⇒ フェリーで竹原港へ ⇒ バスで忠海港へ ⇒ フェリーで大久野港へ ⇒ 大久野島 ⇒ 徒歩で休暇村大久野島 (ホテル) ⇒ 平和講話 ⇒ 大久野島内遺跡巡り ⇒ ホテル
 【3日目】 ホテル ⇒ 毒ガス資料館 ⇒ 大久野港 ⇒ フェリーで忠海港へ ⇒ 鷺羽山ハイランド ⇒ 学校

本校の現状と課題 (目的設定の背景)

本校の生徒の生活現状(令和四年度)は、生活保護率は12%、生活保護を含めた就学援助率は46%、ひとり親もしくは両親がいない生徒の割合が27%と、大阪市平均と比較し、厳しい状況であることがわかる。30日以上欠席している生徒の割合は、昨年度大幅に増加し(令和三年度17名↓令和四年度27名)、3年生で14%、2年生で17%、1年生で13%、全校平均で15%と、大阪市平均より多い状況である。100日以上欠席者も10名(令和三年度2・2%↓令和四年度5・4%)と倍増している。また、令和四年度1年間での虐待ケースでの対応は14件(令和三年度10件)。現時点で施設対応となっている生徒もおり、ヤングケアラー調査においても、対象となる家庭が12・7%該当しており、何らかの支援が必要な生徒の



●重点を置いた活動

生徒の自尊感情の向上を目指し、自己決定権を尊重した取り組みを推進した修学旅行

割合は、1年生で33%、2年生で29%、3年生で28%と極めて厳しい割合であることがわかる。

このような結果からも本校生徒が置かれている生活状況には大きな課題があることがわかる。このような状況下で本校生徒は、上記のグラフが現すように、自尊感情の育成が大きな課題となっている。

修学旅行を実施した3年生においても、2年生後半から3年生初めに3人の生徒が転入したが、いずれも生活課題を抱えており、拡大する格差を反映している。そのため修学旅行の目標設定を、互いの違いと個性を認め合うための「人権感覚の育成」と、自尊感情を育むための「主体性の促進」とした。

目的地的設定

本校は人権教育を中心に様々な教育活動を行っている。修学旅行においては、中学校生活3年間で取り組んできた平和学習が行える場所ということを踏まえての選定を行った。コロナ禍の影響で、2年生時の取り組みである職業体験学習が実施できなかった。今年度はコロナの状況が少しずつ落ち着いてきたため、自然や人と触れ合い様々なことを体験する職業体験学習「民泊」ができる場所として選定を行った。また、学年の生徒の中には、家庭環境に課題を抱えた生徒、学習に対して自信のな



クラス対抗で權伝馬(かいでんま)競争

事前学習

い生徒、無気力な生徒などがおり、そういった生徒たちが修学旅行を通して積極性や協調性を伸ばすことができる活動を選んだ。

本校では1年生入学時より、互いの立場と違いを理解しあう集団作りに始まり、様々な人権教育に取り組んできた。部落問題学習としては、1年時に「迷信と汚れ意識」、2年時では「大和川の付け替えと矢田部落の起り」。障がい者理解学習としては、1年時に「みんなちがってみんないい」、2年時に「聴覚・視覚障がい者の講話と体験」「バラスポーツ(ボッチャ)体験」。

国際理解教育としては、1年時に「民族体験（韓国・朝鮮の遊び）」、2年時には「韓国・朝鮮と日本の歴史」と異文化理解。その他の人権教育として、1年時にジェンダー理解、2年時にメディアリテラシーについて学習してきた。

2年時の1月から、生徒の有志で修学旅行実行委員会を発足し、活動を行った。コロナの影響で一泊移住の延期や職業体験の中止などがあり、生徒も教員も予定通りに実施できる初めての宿泊行事であり、入念な打ち合わせが行われた。また、修学旅行時、平和学習も行うため、1年生で地元大阪の「大阪大空襲」「田辺の模擬原爆」の学習、2年生で「沖縄での地上戦」について学習しており、修学旅行への準備を進めてきた。

活動の様子

● 権伝馬体験

大崎上島の伝統的な舟、「権伝馬^{かいでま}」を体験。前後半と各クラス2グループに分かれ、「権伝馬に乗り込み体験するグループ」と「権伝馬の歴史や組紐の結び方についての講習を行うグループ」に分かれて活動した。最後はクラス対抗で権伝馬競争を行い、各クラス団結し、学年全体が一つになって取り組めた。大きな声を出し、息を合わせて権を漕ぐ生徒たちの姿は、感動ものだった。



民泊体験で釣った魚の調理



広島県の元社会科教員の山内さんより平和講話



毒ガス資料館見学

● 民泊体験

大崎上島の民家さん宅で家業体験。漁師や農家、マリンスポーツを運営されているご家庭での民泊は、大阪では味わえない自然をふんだんに楽しみながら家業体験することができた。大崎上島では、コロナ後最初の民泊実施となったこともあり、町を挙げての大歓迎を受けた。最後に島を離れる時には、町長をはじめ多くの島民の皆様に見送られて、感動的な別れとなった。

● 平和講話

平和講話は、ホテルの大広間で広島県の元社会科教員の山内さんよりご講話をしていただき、戦前の「地図に無い島、大久野島」の歴史や、毒ガスの後遺症で苦しんだ人々などの思いを聞くことができた。ウクライナでの戦争にも触れて、戦争の非人

道性や命の尊さ、今も続く現実の厳しさを学ぶことができた。

● 遺跡散策

大久野島内を自然に触れながらサイクリングで巡り、島に残る戦争にまつわる遺跡をホテルのスタッフの方に説明していただき見学を行い、戦争の実相に触れることができた。

● 学年レク

修学旅行実行委員会の主催で、学年全体でレクリエーションを行い、ゲームやクイズ、ダンスなどで学年の絆や親睦をさらに深めることができた。

● 毒ガス資料館

戦争中、大久野島が地図から消された歴史や毒ガスを製造する際にたくさんの犠牲者が出たこと、戦争の悲惨さを映像や資料



大久野島の歴史遺構



鷺羽山ハイランドでの多文化交流

を通して平和の大切さを学んだ。

●鷺羽山ハイランド

学年全体でグループを作り、パーク内を思う存分楽しんだ。また、中央のステージで行われるブラジルサンバショーにも参加し、生徒たちがパーク全体を盛り上げた。今回の修学旅行においては、生徒の自主性を認めていく中で、私服での行動が多くの場所でも認められた。そのことは矢田中学校にとっても大きな一歩となった。

振り返り

本年度は、広島県の離島（大崎上島・大久野島）を中心とした行き先選定を行った。普段の生活では味わえない、自然や歴史を大いに堪能しながら「權伝馬」「民泊」「平和学習」を行うことができた。当初、

新型コロナウイルスの影響で、厳しいかもしれないと言われていた「民泊」も予定通りに実施でき、大崎上島の方々の人間味溢れる温かさや優しさを感じながら、かけがえない経験と「人との繋がり」の大切さを学ばせることができた。

大久野島での「平和講話」「遺跡散策」「毒ガス資料館見学」では、今まで話や映像などでしか知らなかったことを体験談や現物を目の当たりにして、「実際にあった出来事」という認識を改めて感じさせることができた。

レクリエーションや鷺羽山ハイランドでの活動は生徒主体で行った。レクリエーションについては、タイムテーブルや出し物を生徒たちで考え、学年全体で盛り上がることもできた。鷺羽山ハイランドでは、「私服」での活動を試み、自分たちでルールを守って服装チェックをしたり、グループを作って活動したり、生徒たちが「ありのまま」に活動できる雰囲気づくりが行えた。

人の温かさや優しさを感じたり、戦争の悲惨さや残酷さを学んだり、ありのままの自分を出せたりと短い期間で多くの人権感覚を養うことができた。

生徒の感想と事後学習

生徒の感想は、平和講話や毒ガス資料館などの戦争に対する学習についてのことが多く見られた。「教科書に載っていないこと

を知ることができた」「戦争中に実際に使われていた服や道具、写真を見て悲惨さを痛感した」「今でも苦しんでいるひとがいることを知りました」「戦争は誰が加害者なのかわからなくなりました」など、2度と同じ過ちを犯してはいけないことを、実際の話を聞いたり、物を見たり触れたりすることで、戦争の怖さを肌身で感じ学ぶことができたようだ。

帰校後は、夏休みの平和登校日に「広島原爆」について事後学習として行い、戦争の悲惨さ、戦争は最大の人権侵害であることの認識をさらに深めることができた。

修学旅行の3日間で、しおりを見て次の行動や役割を行おうとする意識が高まり、時間を大切にしたり、自分で自分のやるべきことを確認したりすることができ、協調性や個人の人間力の高まりも見えた。修学旅行の成果を今後の学校・学年活動に活かし、卒業後の進路で大きく飛躍できるよう、学年教員一丸となって77期生の成長にこれからも大きく関わっていききたいと思う。

おわりに

修学旅行を終え、今後は自分たちの身の回りの人権課題に向き合うため、「矢田学習」や「拉致問題」、「いじめ問題」への取り組みを行い、進路やその後を見据えたアイデンティティの育成を行い、卒業へとつなげていきたいと考えている。